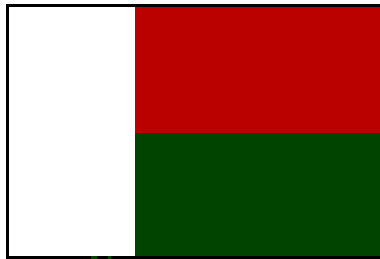


2007.09

マダガスカル共和国



安全対策巡回指導結果報告書

安全情報チーム
(鈴木)

総

CR(5)

07-003

目次

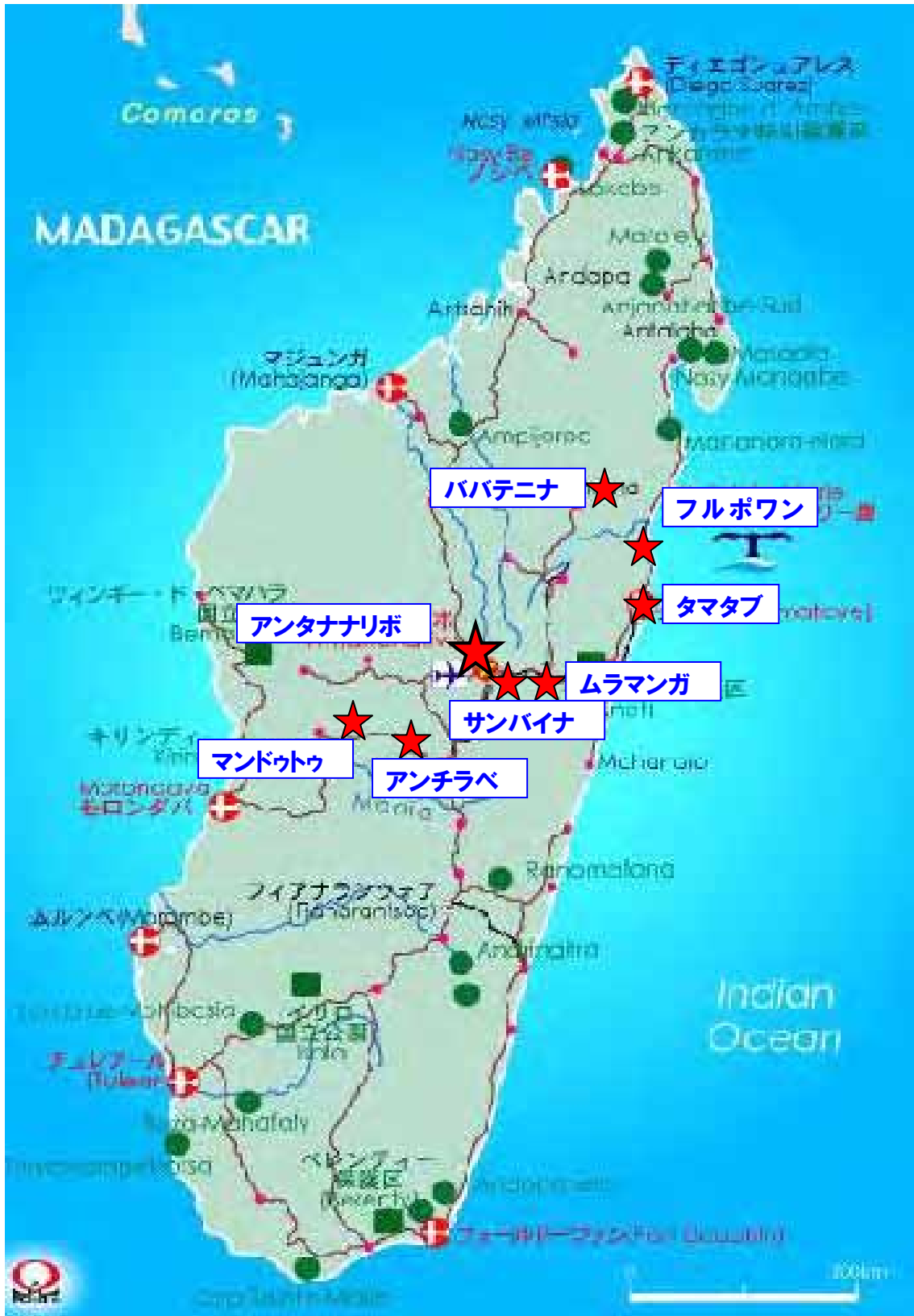
日程表	1
マダガスカル共和国巡回指導先(地図)	2
第1 治安情勢	3
1 治安状況	3
2 体感治安	5
3 道路状態と緊急輸送手段	7
第2 JICA関係者の犯罪被害実態	9
1 マダガスカルにおける犯罪被害実態	9
2 犯罪被害増加の要因	10
第3 安全対策推進状況	11
1 事務所の取り組み	11
2 緊急事態発生時の対応	11
3 安全対策クランク	12
4 大使館との関係	13
第4 JICA関係者の住居等点検と安全指導結果	13
1 点検実施数	13
2 評価基準	13
3 点検結果	13
4 総合評価	13
第5 安全対策セミナーの開催	14
別添1 マダガスカル共和国における犯罪被害実態と対策	16
別添2 マダガスカル事務所緊急連絡網	17
別紙1 事務所・住居等安全点検結果・評価基準	20
1 JICA事務所	21
2 隊員連絡所	29
3 タマタブ柔道隊員候補住居	34
4 諏訪ゆう子隊員住居	37
5 竹前宏美隊員住居	41
6 ムラマンガ派遣隊員候補住居	46
7 海老原フィールド調整員住居	49
8 サンバイナ派遣農業隊員候補住居	53
9 菅原耕太隊員住居	57
10 石田あおい隊員住居	60
11 三浦昭子隊員住居	65
12 JICA事務所移転候補物件	68
別紙2 安全対策セミナー出席者名簿	
別紙3 安全対策連絡協議会資料(日本大使館河上領事)	
別紙4 安全対策セミナーレジュメ	
別紙5 マダガスカル安全の手引き	

安全対策巡回指導調査団日程表

2007. 6. 28作成

	日付	時間	移動予定	活動内容	宿泊地	備考
安全対策巡回指導調査団日程表						
1	7月7日 土	18:20 22:15 23:30	ヨハネスブルグ発 アンタナナリボ着 ホテル着		PNORAMA (261) 20-22-412-45 住所Andrainarivo BP756	MD125
2	7月8日 日	11:00 12:00 13:30 15:30 17:15 18:30	アンタナナリボ発 タマダブ着 タマダブ発 フルポワント着 ホテル着	移動(緊急用航空会社(MAF)調査) (昼食) 憲兵隊訪問 タマダブ市内安全確認、隊員入居予定住居安全点検 出発 諏訪隊員住居安全点検	フルポワント MANDABEACH (261) 20-57-220-00 住所Tolongoina	空路(MAFチャーター) (公用車)
3	7月9日 月	7:30 10:00 11:30 14:30 16:00 18:30 19:45	ホテル発 フルポワント発 ババテニナ着 ババテニナ発 フルポワント着 ホテル着	フルポワント憲兵隊訪問 道路状況視察確認 竹前隊員住居安全点検/イリジウム動作確認 (昼食) ババテニナ憲兵隊訪問 道路状況視察確認 諏訪隊員住居イリジウム通話テスト	フルポワント MANDABEACH (261) 20-57-220-00 住所Tolongoina	(公用車)
4	7月10日 火	7:30 13:30 14:00 16:00 17:00 19:15	フルポワント発 ムラマンガ着 ムラマンガ着 ホテル着	(昼食) 国道44号線道路状況視察確認 ムラマンガ憲兵隊訪問 ムラマンガ市内安全確認 隊員入居予定住居安全点検	ムラマンガ Hotel Buffet de la gare (261) 20-56-832-08 住所Andasibe	(公用車)
5	7月11日 水	7:30 8:30 10:00 10:30 12:00 13:00 15:30 17:45	ホテル発 ムラマンガ発 サンバイナ着 同発 アンタナナリボ着 ホテル着	フィールド調整員住居安全点検 隊員入居予定住居安全点検 (昼食) アンタナナリボ憲兵隊/警察署 表敬訪問 事務所、隊員連絡所安全点検	アンタナナリボ PNORAMA (261) 20-22-412-45 住所Andrainarivo BP756	(公用車)
6	7月12日 木	7:00 12:00 14:30 16:30 17:00	アンタナナリボ発 マンドゥトゥウ着 マンドゥトゥウ発 アンチラベ着 ホテル着	出発 (昼食) 菅原隊員住居安全点検/イリジウム通話テスト 石田隊員住居安全点検	アンチラベ Arotel (261) 20-44-485-74 住所Rue Jean Ralaimongo	(公用車)
7	7月13日 金	8:00 8:30 10:00 13:00 14:30 15:30 18:00 19:15	ホテル発 アンチラベ発 アンタナナリボ着 ホテル着	三浦隊員住居安全点検 アンチラベ憲兵隊訪問 (昼食) 大使館河上領事表敬訪問 アンタナナリボ市内視察、事務所候補物件点検 事務所報告	アンタナナリボ PNORAMA (261) 20-22-412-45 住所Andrainarivo BP756	(公用車)
8	7月14日 土	午前中 13:30 17:00		書類作成・整理 セミナー準備 安全対策セミナー ホテルパノラマ	アンタナナリボ PANORAMA (261) 20-22-412-45 住所Andrainarivo BP756	
9	7月15日 日	12:00 15:00 17:20	ホテル発 アンタナナリボ発 ヨハネスブルグ着		ヨハネスブルグ Protea Hotels Transit (27) 11-390-1160	MD120(SA)

マダガスカル共和国巡回指導先



マダガスカル事務所巡回指導結果

第1 治安情勢等

1 治安状況

(1) 政情

当国は2001年12月に実施された大統領選挙において得票結果をめぐりラチラカ候補とラヴァルマナナ候補が対立し、2人の大統領が並存する異常な状態となり政情不安が続き「国家緊急事態」や「厳戒令」が布告され治安が悪化するに至り、同年8月に設置したJICA調整員事務所を12月末で一時閉鎖する事態となった。

2002年4月、選挙の再集計でラヴァルマナナ候補が大統領に選出され、7月にラチラカ大統領のフランスへの出国を機に政情が沈静化し、同年12月の国民議会選挙も平穏に実施されて政情が回復に向かったことから、同年12月事務所を再開し協力隊員の派遣が開始された。しかし、政情が回復に向かったとは言え、2005年10月、北部のアンチララ州において反政府デモが発生し治安当局との衝突が起き首都にも波及するかに見えたが封じ込められた。以後、内政は徐々に安定し、2006年12月の大統領選挙ではアンタナナリボ空港が一時閉鎖される事態もあったものの大きな混乱には発展せず、ラヴァルマナナ大統領が再選された。本年4月に「大統領権限の強化を含めた憲法改正のための国民投票」が実施され、投票結果が政府によって操作されたとして、マジュンガ市において野党による政治集会が開かれて一時的に同市の治安が悪化した。全国に波及するには至らず大きな事態には発展していない。しかし、経済成長、貧困削減等を目指した「マダガスカル行動計画」を策定したものの一般国民の生活水準の向上には繋がっておらず、物価の高騰によって生活困窮者が増大し、西海岸地区では「給与引き上げデモ」が発生しているなど、現政権に対する国民の不満が蓄積しているとのみかたが出ている。

過去には反政府運動もあることから政情について注視していく必要がある。

(2) 一般犯罪

政情は安定に向かっているとは言え、大統領選挙に伴う8か月に及ぶ政情混乱から国内経済が疲弊し、現在も物価が高騰して生活困窮者が増大しており、貧困を原因とした犯罪が都市部を中心に増加し、地方への広がりも見られる。

また、当国における特徴的な犯罪は地方での「牛泥棒」であり、地方の治安を担当するジャンダルメリ(憲兵隊)では最重要課題に挙げている。都市、地方で発生している主な犯罪としては、

- すり(断ち切りすり等)・置き引き、ひったくり
- 侵入盗(空き巣、忍び込み、居空き、ホテル荒らし、事務所荒らし)
- 銃器使用押込み強盗(民家、銀行、商店、ガソリンスタンド、事務所等)
- 銃器等使用路上強盗、自動車強盗
- 車上狙い
- 身代金目的誘拐(富裕層、商店・企業経営外国人対象)
- 麻薬犯罪(密売、原料を生産しモーリシャス等への密輸)
- 宝石の盗掘、密輸
- 性的犯罪(海岸地帯で多発、又近親間での被害が多い。)

が挙げられる。

① 首都アンタナナリボ

首都アンタナナリボにおいては、地方から流入した失業者が目立っており、これらによる「すり・置き引き、ひったくり、路上強盗、侵入盗」はもとより、銃器で武装した集団による商店、銀行、ガソリンスタンド等を狙った襲撃強盗やバス、タクシーを狙っての強盗が頻発している。また、富裕層や商店・企業を経営する外国人(対象・・・インド人、パキスタン人が多い)を狙った営利目的の誘拐事件も発生している。

特に、屋外犯罪危険地帯としては、事務所作成の「安全対策の手引き」に示されており、

○ イスチィ ○ アンダバマンバ ○ アノシベ ○ アナラケリ ○ ツァラララナの各地区においては注意を要し、又夜間の行動は極力避けることが肝要である。

【首都周辺の最近の事件】

- 6月1日・・・アンタナナリボ(東部)・・・武装強盗団による車両・現金強奪事件
- 6月3日・・・アンタナナリボ(クリニックデスール近く)・・・誘拐事件
- 6月5日・・・アナラケリー・・・タクシー強盗事件
- 6月7日・・・アンブヒバオ(空港近く)・・・15人の武装強盗事件
- 7月6日・・・ベオリリカ・・・強盗団(4人)と警察の銃撃戦
- 7月12日・・・イスチィ・・・銃器使用建材販売店強盗殺人事件

【首都アンタナナリボ】



アンタナナリボ空港



事務所からの見る市内



市内中心部



駅から南東に延びる独立大通り



市中心部の繁華街



市内は坂が多い

② 地方

巡回した各都市(タマダブ、フルポワント、ハバテニナ、ムラマンガ、アンチラベ)においては、「すり、置き引き」の他に侵入盗(特に雨季に多い)、性犯罪等が発生しているものの、多発している状態ではない。

ただ、各地区憲兵隊(ジャンダルメリ)が挙げる特徴的な事犯、事項としては、

○ タマダブ

- ・南部地域における「牛泥棒」
- ・海岸沿いの中国人の増加(当地区はイスラムも含め人種的には混在している。)

- ・犯罪としては侵入盗被害(外国人宅では雇用した警備員による犯行が多い。)
- ・トラックのスピードの出し過ぎによる交通事故

○ ムラマンガ

- ・墓の盗掘被害(女性の墓を盗掘して骨を密売する・エイズの薬との噂による)
- ・線路に沿って埋め込まれている光ファイバー泥棒
- ・貴金属の発見による盗掘者の増加(北方から流れてきている。)
- ・カナダ系企業によるニッケル関連会社の操業開始に伴う人口増

○ アンチラベ

- ・アンバトランピ町(フライパン等食器の生産地)での「手製けん銃」の密造
- ・国道 34 号線アンチラベ周辺での山賊の出没

等があり、特に、ムラマンガにおいては、急激に人口が増加しており、今後治安面にも影響を与えるものと見られる。他の町村では主に「牛泥棒」が犯罪の最たるものである。

③ その他

大使館河上領事は

- 国道 7 号戦沿い及び西海岸付近全域で夜間山賊が出没している。

国道 7 号線ではフランス人グループが襲われており 2 人が殺害されている。

特にフィアナランツァ〜チュリアル間で観光客を狙うグループが存在する。

と指摘し、同地域での移動には十分注意するよう注意を喚起している。

2 体感治安

全般的に見て、極端に治安が悪く身にひしひしと危険を感じる状況は見られないが、日本的な感覚の延長線での行動では被害に遭遇することが十分予測され、途上国で生活しているとの意識が必要である。また、住居については、都市、地方も含めて一般住宅においても窓にバーグラバーを設置したり、ファミリーで防御するとの配慮がなされていることから、空き巣等の屋内侵入犯罪が多いことが窺える。

住居事情は非常に悪く、特に、北部東海岸地域においては、屋根や壁がラミナラの葉(通称旅人の木)造りの簡素な家屋が多く安全性の高い住居を確保することは難しい。

(1) 首都アンタナナリボ

際立って危険を感じるような場所はないが、

- アナラケリマーケット及び両側の階段一帯
- 中央郵便局周辺と市場通り

においては、すり、置き引き、ひったくり、路上強盗の多発する地帯であることが感じられ、所持品(リュック、バック等)の携行方法について十分なる配慮が必要である。特に、

- 場外マーケットでは・「すり、置き引き、ひったくり」被害防止への配慮
- 場内マーケットでは・「すり」被害防止への配慮
- マーケット側階段では・「すり、ひったくり」被害防止への配慮
- マーケット周辺路地では・「路上強盗」被害防止への配慮
- 中央郵便局周辺では・「ひったくり、路上強盗」被害防止への配慮
- 地方到着バスターミナル地区・「すり・置き引き」被害防止への配慮

が必要である。また、市内の大型スーパーにおいては、特に危険を感じるような状況は見られない。外国で生活している」との意識さえ忘れずに生活すれば、安全は十分確保できる。

【市内の】危険地帯



中央市場



独立大通り挟む東側階段



左同西側階段



中央郵便局前通り



中央郵便局



地方タクシーブルース到着場所

(2) 地方

巡回視察した各地域は都市を含めて危険を感じるような場所、状況はなく、住居対策を徹底すれば日本在住時の感覚でも安全に生活できる。

地方の都市近郊を含め、のんびりした田園風景、山間風景が続いており、農業、牧畜が盛んで、特に中央高地一帯は水田による稲作が行われ棚田や畑が続いており、日本の昭和30年代前後の田舎の風景そっくりで、「日本に居る」と錯覚するような生活環境であり、これらが危機意識を喪失させているとみられる。

このような環境の中で活動していることから、上京した際に同じ感覚で行動するために被害を多くしていることが窺える。



タマタブの海岸



ババテニナ周辺の集落



アンチラベ近くの高原地帯



アンタナナリボ～アンチラベ間の田園風景

3 道路状態と緊急輸送手段

(1) 道路状態

国道については、首都から通じる主要幹線は、一応舗装され幅員も確保されているが、地方の一部では、未舗装であったり浮橋を使用しているため雨季に通行不能となり、孤立する地域がある。

また、首都を除く各都市、集落においては、国道から一歩反れると未舗装で凹凸が激しく、又舗装されていても路面が破損して凹凸があるなど道路状態が非常に悪く、時速5～10キロでしか走行できない場所が多い。

① アンタナナリボ～ムラマンガ間 (国道2号線)・・・120 km(所要約2時間)

全線舗装された道路幅員8～10mの道路で、路面状態は良い。交通量は比較的多く、時速100キロで走行可能であるが、山間部はカーブが多く時速60～70キロとなり対向車に注意を要する。大型トラックの走行が多く、タクシーブルース(ミニバス)が運行している。交通事故が多い路線である。

② ムラマンガ～タマタブ間 (国道2号線)・・・250 km(所要約4時間)

山間部が多く道路幅員は8～10mの全線舗装道路でカーブと起伏があり、都市近郊は時速100キロ前後で走行可能であるが、大半は時速70キロ前後での走行となる。タマタブ近郊になると極端に交通量が多くなる。

大型トラックの走行が多く、タクシーブルースが走行している。大型車の事故が多い。

③ タマタブ～フルポワント間 (国道2号線)・・・60 km(所要約50分～1時間)

国道2号線が北に延びており、道路幅員は6～8mで全線舗装されているが、ところどころの路面に穴が空いているが気になるような状態ではなく比較的良い道路と言える。

交通量はあまり多くはなく、タクシーブルースが多くトラックは4トン車止まりが多い。タマタブから約35キロ地点に川幅約60mのイフンツイ川があり、橋は浮橋でタマタブ側の岸寄りか沈んでおり、車はタイヤに水を被るような状態で浮橋を渡っている。

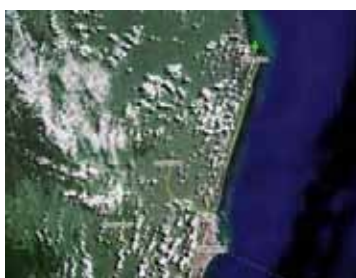
フルポワントの憲兵隊(ジャンダルメリ)の説明では、

「雨季は通行不能となり橋から北側の地域は孤立した状態となる。」

旨述べている。隊員の派遣されている

○ フルポワント(女性隊員1名) ○ ババテニナ(女性隊員1名)

方面には、浮橋のある本道路しかなく、又これら地域には空港がないことから全くの孤立状態となる。緊急時のヘリコプターの確保も難しい。事務所では、昨年、フルポワント以北に派遣の隊員を通行不能前にタマタブに移動させている。



タマタブ、フルポワント間



イフンツイ川の浮橋



タマタブ側が沈んでいる



乗客を降ろして浮橋をわたる

人は小船を渡る

④ フルポワント～ババテニナ間(国道 5 号と国道 22 号線)・・・87 km(所要約 2 時間半)

フルポワントから北に延びる幅員約 6～8m の国道 5 号線を約 32 km 走行した地点のアスカフカで、西方に延びている国道 22 号線に入る。道路は狭くなり幅員約 4m の舗装道路で相互通行は可能であるが、山間部ではカーブや坂が多く時速 50 キロ前後で走行することとなる。雨季には路面崩壊や土砂崩れの恐れがある。

ババテニナは国道沿いに町があり、町内の国道は舗装されているものの路肩の崩れたところが多く相互通行もままならない状態である。又国道から一步反れると細い凹凸の激しい未舗装道路である。

ババテニナ派遣隊員(女性)は、国道から南側に坂を下り 350m 程入ったところの人家のないサッカー場傍に居住している。



左側がババテニナに通じる
国道 22 号線

道が細く山間部を通る土砂
崩れの恐れがある

カーブが多い

⑤ ムラマンガ～ヴォヒディアラ間(国道 44 号線)・・・150 km

(本年 2 月 21 日企画調査員車スタック路線)

ムラマンガから北方に国道 44 号線が延びており、ムラマンガ近郊は舗装道路であるが、約 14 キロ地点で未舗装となる。幅員は約 10m あり、視察時は修復されているものの土を盛り上げ固めた状態であり、大型トラックが走行していることから雨季に入れば陥没や凹凸が激しくなり通行不能となることが十分予想される。

企画調査員車のスタック地点近くのムラマンガから 120 km の地点まで走行したが、周囲は民家のない灌木地帯で、携帯電話は通話不能であるが、衛星携帯のイリジウムは良好に通話できる。

なお、同路線について当地を管轄する憲兵隊長(コロネル ドウラ)は、

「道路の修復は終わったが、舗装道路ではないので雨季に入れば、再び同じようなことで通行不能になる。十分情報を収集して通行してほしい。又情報を提供する。」

旨述べており、雨季における走行は避けるべきである。



改修された国道 44 号線
盛土して固めただけ



橋の部分は片側通行となる



スタック近くの道路

⑥ アンタナナリボ～アンチラベ (国道 7 号、34 号線) ・ ・ 169 km (所要約 2 時間半)

国道 7 号から国道 34 号線が延びており、道路幅員は約 8～10m で全線舗装されており、高原地帯を走るなだらかな起伏のある非常に良い道路で、時速 100 キロ以上での走行が可能である。交通量は多く、大型トラック、タクシーブルースが多く走行している。道路状態には全く問題はない。

⑦ アンチラベ～マンドウトゥ間 (国道 34 号線) ・ ・ 117 km (所要約 2 時間)

国道 34 号線がアタナナリボ～アンチラベ間と同じ状態の道路が延びているが、交通量は極端に少なくなりまばらとなる。道路状態は非常に良い。

(2) フルポワント、ババテニナ派遣隊員の緊急時の輸送手段

国道 2 号線のタマタブ～フルポワント間にあるイフンツイ川の浮橋は、雨季に通行不能となることが多くフルポワント、ババテニナ派遣隊員は孤立状態となる。

傷病(特に狂犬病)、重大事故、緊急事態の発生等非常時の場合の輸送手段としては、陸路(イフンツイ川を小船での渡岸の保証もない)、空路(空港がなく又ヘリコプターの確保も無理)での救出は不可能である。残るのは、タマタブ港からフルポワントへの渡船(クルーザー等の確保)による救出であるが、サイクロン襲来時には不可能となる。

特に、ババテニナについては、フルポワントから更に 87 km の行程で、殆どが山間部であり土砂崩れによる通行遮断も予想される。

このような状況下では、派遣の是非をも含めて検討を要する。

第 2 JICA 関係者の犯罪被害実態

1 マダガスカルにおける犯罪被害実態

(1) 18 年度以降、派遣者の増加とともに被害発生数が増加し、被害遭遇率が JICA 関係者派遣国中ワースト 4、アフリカ地域ワースト 1 である。

○ 18 年度の被害 ・ ・ 被害発生数 10 件 10 人、被害遭遇率 4.2 人に 1 人の割合で遭遇

・ 発生数 ・ ・ アフリカ地域第 6 位

(ザンビア、ケニア、ガーナ、ウガンダ、タンザニアに次ぐ第 6 位)

・ 遭遇率 ・ ・ 関係者派遣国中第 4 位

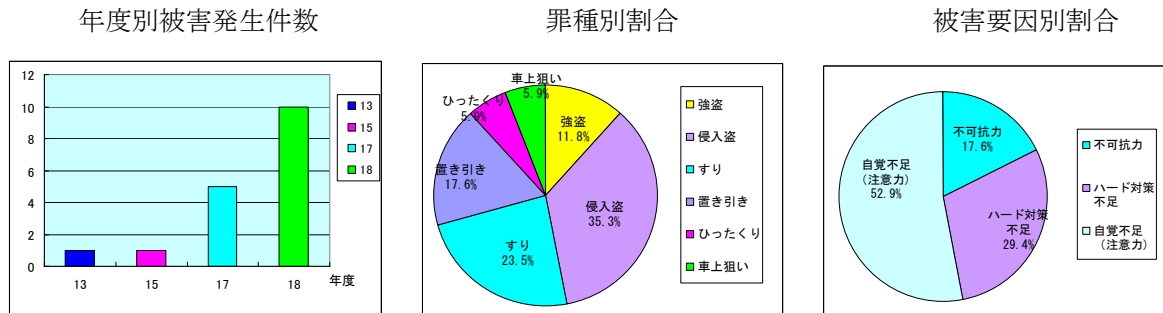
(ボリビア、グアテマラ、ブラジルに次ぐ第 4 位)

(2) 罪種別では、侵入盗被害が 35% を占めており、ガーナ(被害の 50%) に次いで比率が高く、特

に当国では女性隊員の被害が多い。18年度の侵入盗被害は「空き巣」被害に止まっているが、今後、「空き巣」から「忍び込み」「居直り強盗、レイプ」への発展が危惧される。

- (3) 住居のハード対策不足による被害割合が29.4%を占めており非常に高く、主に玄関と窓の防備不足によるものが多い。また、当国の特徴とも言える「警備員の犯行」と見られるケースがあり、警備員採用時の身元調査を徹底し信頼できる者採用するよう望まれる。

マダガスカルにおける JICA 関係者犯罪被害発生実態(平成 12 年～17 年)



2 犯罪被害増加の要因

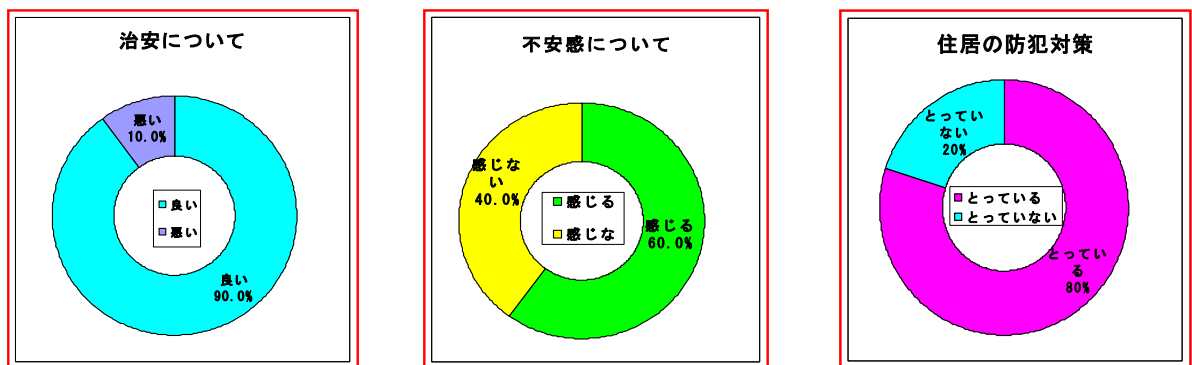
当国の犯罪被害は、18年度以降急激に増加しているが、現地視察や関係者のアンケート及び面談結果から、次の2点が挙げられる。

- (1) 当国は安全な国との意識が高く無防備となっている。

当国の治安状態に関する関係者のアンケート結果を見ると、治安が良いと回答している者が90%(10人中9人)、又不安がないと回答した者が60%(10人中6人)であり、「マダガスカルは安全」との意識が非常に強い。

この意識は特に地方隊員に多く、農業、牧畜が盛んで、水田による稲作が行われ棚田や畑が続いているのんびりした田園風景、山間風景が「日本に居る」と錯覚させ、日本在住時と同じ意識で行動していることに起因しているものとみられる。

安全対策意識調査結果(回答者10人・・男性隊員3人、女性隊員7人)



- (2) 住宅事情が悪く、住居防犯対策が不備な状態にある。

地方においては住宅事情が非常に悪く防犯対策が十分でないのに加え、「安全な国」との意識が先行し居住者が疑問を持たない(例、扉や錠前の脆弱さ、警備員に対する意識等)ことに起因している面がみられる。

第3 安全対策推進状況

1 事務所の取組み

(1) 安全対策取組体制等

安全対策については、麻野次長の下で櫛田所員が中心となって真剣に取り組んでいる。直接の担当者としては、

○ 所員・専門家・・・麻野次長、櫛田所員

○ 協力隊員・・・総括細田調整員

柴山フィールド調整員(主にアンタナナリボ州、西部地区)

海老原フィールド調整員(主にトリアナ州、タマタブ州)

が当っており、連携して熱心に取り組んでいる。

特に、櫛田所員は、女性のきめ細かさを活かした安全対策を推進しており、東海岸北部地区の住宅及び医療面での安全確保の難しい地区への派遣に危機感を抱いている。



JICA 事務所全景



事務所玄関



執務室

2 緊急事態発生時の対応

「マダガスカル安全の手引き」を作成し緊急事態時の対応についても簡記しており、更に緊急輸送手段について陸路輸送が不可能な場合のチャーター機による輸送も確保している。

ただ、下記(2)に記載のとおり、航空機による輸送も陸路による輸送も不可能な地域がある。

(1) 緊急輸送航空会社「MAF」調査結果

当国において「MAF」がアンタナナリボ空港を拠点に業務を行っており、同社は世界各国で活動しているカナダ系の緊急輸送専門の会社である。当国での使用機、整備状態、安全性について調査した結果、問題はないと思慮される。なお、同社「MAF」には現ガーナ JICA 事務所の高橋調整員がパプアニューギニアを拠点にパイロットとして勤務していた。

【当国での使用機種、整備、運行状況】

○ 機種 5R-MKD セスナ208型

○ 製造 アメリカ、1991.05.06 製造、これまでの飛行時間 5,700 時間

○ 搭乗人員 10人(パイロット2名含む) 搭載重量 1t

○ 飛行時間 7時間(燃料満タン1,200リットル搭載時)

○ マダガスカルでの運行 2003年12月10日から開始

○ 拠点 アンタナナリボ空港に格納庫所有

○ 整備状況 100時間毎に整備、5,000時間毎に大メンテナンス
運行時には必ず整備点検実施

○ パイロット

機長 カナダ人 Jose R. Plett 29歳(男性)

副操縦士 ニュージーランド人 Trevor D. Ramsey 60歳(男性)

- 航法 計器ナビゲーター使用
- 通常の飛行高度 海拔 9,000 フィート

搭乗結果から安心して搭乗できる。又同機にはタンカーの搭載も可能であり緊急輸送用設備が整っている。なお、今年 10 月にもう 1 機配備されるとのことである。



アンタナナリボの格納庫



格納庫内の使用機



使用機種のスエナ 208 型機



タンカーの搬送も可能



中央が機長、左が副操縦士



タマタブ空港滑走路

(2) フルポワント、ババテニナ配属隊員の緊急輸送

本件については、第 1、3 の(2)で前述したとおり、タマタブとフルポワント間のイフンツイ川の浮橋が通行不可能となった場合、孤立状態となり、残されるは海上からの救出となるが、サイクロン来襲時は不可能となる。

また、服部健康管理員の調査では、同地区での医療面の安全確保は難しいとの意見である。派遣の是非をも含めて検討を要する。

(3) 緊急通信手段と通信状態

携帯電話を主体とした通信手段を構築しており、マンドウトゥを除く各地での事務所及び所員との間の通話状態は良好であるが、マンドウトゥについては通話不能である。

緊急用として衛星携帯イリジウム 10 台を基地局として運用しており、マンドウトゥ(屋外アンテナ使用)を含めて、事務所固定電話、地上波携帯電話との通話状態は良好である。

但し、事務所とのイリジウム間の通話については、事務所内からの通話は不能であり、事務所に「屋外アンテナ」を設置する必要がある。

なお、衛星携帯「スラヤ」については通話可能か未調査である。

3 安全対策クラーク

安全対策クラーク RATOKOVAO 氏はジャンダルメリ OB で、外務省からの紹介で雇用した経緯がある。活動としては情報の提供があるが、殆どが新聞情報であり、又腰が重く緊急時の対応にはむかず、事務所員の信頼は薄く解雇する方針である。現在、アンタナナリボ市警察本部、憲兵隊本部(ジャンダルメリ)に適任者の推薦を要請中である。

なお、当国の場合、都市内治安と地方の治安管轄が、都市警察と憲兵隊(ジャンダルメリ)に分かれていることから、双方の出身者を雇用することが望ましい。

4 大使館との関係

大使館とは良好な関係を保持しており、安全対策関係情報については、河上武官兼領事(海上自衛隊から出向)と情報交換を行っている。

なお、安全対策連絡協議会には同領事が出席し、治安情勢等について情報提供している。

第4 JICA関係者の住居等点検と安全指導結果

1 点検実施数

11 箇所 (JICA 事務所、隊員連絡所、フィールド調整員住居、隊員住居 8 箇所)

2 評価基準(下記の4段階で評価)

- A・・・現在のままで問題ない。
- B・・・若干の改善を加えれば、現在のままでよい。
- C・・・相当の問題があり、可能であれば転居も考えた方がよい。
- D・・・改善不能の問題があり、転居することが望ましい。

3 点検結果

- ① JICA 事務所・・・B
- ② 隊員連絡所・・・B
- ③ 海老原フィールド調整員宅・・・Aに近いB
- ④ 協力隊員住居
 - A・・・・・・・1 箇所(マンドウトゥ 菅原耕太隊員宅)
 - Aに近いB・・・1 箇所(アンチラベ 石田あおい隊員宅)
 - B・・・・・・・3 箇所(フルポワント 諏訪ゆう子隊員、アンチラベ 三浦昭子隊員
サンバイナ 隊員入居予定宅)
 - C・・・・・・・1 箇所(ババテニナ 竹前宏美隊員宅)
～安全性の高い家屋に転居することが望ましい。～
 - 対策未実施家屋・・・2 箇所(タマタブ、ムラマンガ 隊員入居予定家屋)
～大掛かりな改修が必要である。～

※ 各戸の点検結果については、別紙 1「住居等点検結果」を参照されたい。

4 総合評価

- (1) 住宅事情が悪く、安全性の高い住居の確保が難しい。
地方においては住宅事情が非常に悪く、独立家屋やアパート等の確保は難しく、配属先から提供される住居は安全確保上のハード面が十分ではなく、又古い家屋で大改修が必要な場合が多い。
配属先での改修には予算面で限度があり、今後とも JICA 負担の住居安全対策費を投入し、改善を図ることが必要と思慮される。
- (2) ババテニナ竹前宏美隊員宅は住居環境が悪く移転が必要である。
竹前隊員宅は、民家の集中する街から徒歩 15 分ほど離れたところにあり、隣には現地 NGO の事務所はあるものの夜間は不在となり周辺には民家はなく孤立した状況下にある。しかも家屋前には多くの人が集まるサッカー場がある。
家屋はブロック造りトタン葺き平屋で、玄関と裏口の出入口扉はそれぞれ外側が両開きの板扉で、内側にシリンダー錠付きの太さ 12 mm の鉄格子扉を取れつけているものの隙間があ

り壊すことも可能である。更には、トイレ、シャワー室が外付けである。女性隊員の家屋としては、環境、家屋（バード面）の双方に問題が多く適していない。

事務所の見解としては、疑問を持ちつつも警備員を雇用しているから一応の安全性は確保しているとの判断に立っているが、当国では警備員自体に問題ある場合が多く、警察当局も注意を促しているところであり、安全な住居に転居される必要がある。

なお、ババテニナの派遣については、前述第3、2、(2)のとおり、派遣の是非をも含めて検討を要する。

【竹前隊員の住居】



中央家屋が竹前隊員の住居
右は NGO 事務所、左は資材庫



竹前隊員宅前のサッカー場



住居の窓



裏口(板に隙間あり破壊可能)



外付けのトイレ・シャワー室



イリジウム通信中の竹前隊員

(3) 地方隊員の住居では、トイレ、シャワー室が屋外にあるのが多く、女性隊員入居住居の選定にあたっては、可能な限り屋内設置の家屋を選定することが望ましく、やむを得ず入居させる場合は、夜間使用時には携帯アラームを携帯するよう指導を要する。

(4) 寝室の防備対策が不十分である。特に、女性隊員の寝室対策は重要であり、寝室の窓には必ず太さ 10 mm以上の鉄格子を取り付け、寝室出入口扉に内鍵(面付け錠等)を取り付けることを要する。

第5 安全対策セミナーの開催

1 実施日時 7月14日 13:30~17:00

2 場 所 PANORAMA HOTEL 会議室

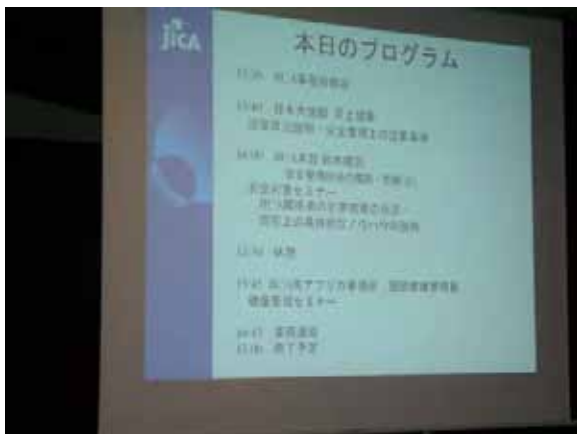
3 参加人員 44人(男性隊員5人、女性隊員21人、専門家3人、所員9人、健康管理員1人
ナショナルスタッフ1人、大使館1人、JICS1人、大豊建設2人)

4 実施内容

- 日本大使館 河上領事(13:40~14:00)
最近の犯罪実態と安全管理上の注意事項
(パワーポイントを使用して説明)

- JICA 本部 鈴木囑託(14:00～15:30)
安全対策セミナー
治安状況視察、住居等点検結果に基づく
「マダガスカルにおける安全対策上の問題点と具体的対策」
(パワーポイントを使用して説明)
- JICA 南アフリカ事務所 服部健康管理員
健康管理セミナー
ケーススタディーによる研修

【セミナー開催状況】



セミナープログラム



麻野次長の挨拶



日本大使館河上領事の治安情勢説明



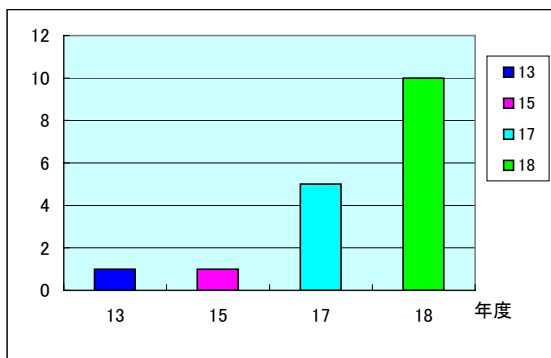
JICA 本部鈴木囑託の安全対策セミナー

マダガスカル国の犯罪被害実態と対策

(平成13年度～平成18年度)

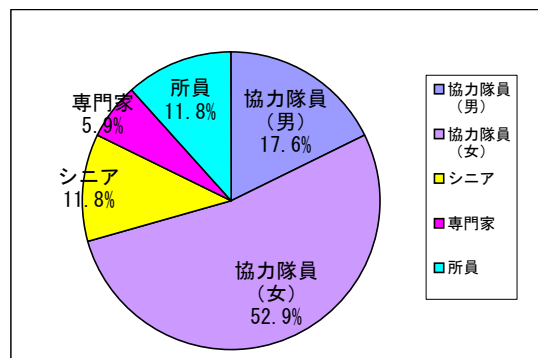
1. マダガスカル国の被害発生状況

(1) 年度別被害発生件数



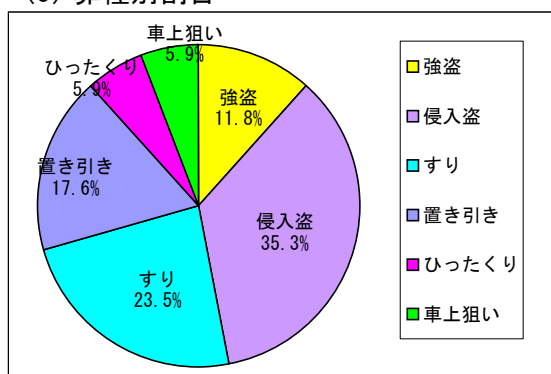
年度	13	15	17	18
件	1	1	5	10

(2) 派遣形態別被害割合



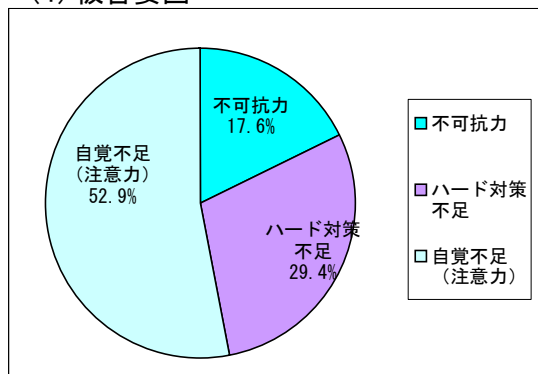
形態	協力隊員 (男)	協力隊員 (女)	シニア	専門家	所員	計
件数	3	9	2	1	2	17
%	17.6%	52.9%	11.8%	5.9%	11.8%	100%

(3) 罪種別割合



強盗	侵入盗	すり	置き引き	ひったくり	車上狙い	合計
2	6	4	3	1	1	17
11.8%	35.3%	23.5%	17.6%	5.9%	5.9%	100%

(4) 被害要因



不可抗力	ハード対策不足	自覚不足 (注意力)	合計
3	5	9	17
17.6%	29.4%	52.9%	100%

2 マダガスカル国の犯罪被害の特徴と傾向

(1) 当国は14年度2次隊から協力隊員の派遣が開始され、当初約3年間は協力隊員の犯罪被害の発生は見られなかったが、17年度の派遣者増加と共に被害が目立ち始め、17年度の被害件数は5件で滞在者当りの被害遭遇率は6.6人に1人とJICA全体の9.7人に1人を上回った。昨18年度においては更に増加し被害件数10件、被害遭遇率は4.2人に1人(JICA全体の9.4人に1人、アフリカ地域7.5人に1人)となり、被害遭遇率で見ると、滞在者20人以上の関係者派遣国中では世界第4位に位置し、アフリカ地域では第1位に位置している。

(2) 当国の特徴

- ① 侵入盗の被害率が高く、「空き巣や忍び込み被害」の侵入箇所は「玄関と窓」からであり、特に住居防犯においてはこの部分の防備の充実を図るべきであり、また、雇用した警備員自身が犯行を行っているケースもあり、警備員の雇用にあたっては「信頼のおける者からの紹介、安対クランクを活用しての身元調査の実施」等により信頼できる者を採用して再発防止を図ることが肝要である。
- ② 屋外においては、「すり被害」が最も多く発生しており、特に、危険度の高いバス内における「断ち切りすり」の発生もあることから、バスに乗る際は抱えてはみ出すA4サイズ以上のバックは持たず、切られにくい材質の物を持つようにし、リュックは抱え持ち、財布、携帯電話等の貴重品は肌身離さず持つことが肝要である。
次に多く発生している「置き引き被害」は、物の管理に問題があり、執務中の机の上にカバンを放置したり、グラウンド等でスポーツをする際荷物をベンチの上に放置したりせず、監視可能な場所や施錠のできる場所等に保管することが望まれる。

(3) 派遣形態別で見ると、シニアも含め殆どがボランティアの被害(82%強)であるが、事務所敷地内への押し込んできた武装強盗団もいることから、事務所を初め、事務所員、専門家の住居の防備の充実を図り、特に警備員の対応に手抜かりの無いよう指導、監視を徹底し、前述のように雇用の際にも十分な配慮を要する。また、外務省の海外安全情報筋によると、当国では、月に2～3件の身代金目的の誘拐事件が発生し、商店経営、企業家等の外国人もターゲットになっていることから、誘拐に遭わないための7原則「**危険地帯に踏み込まない。予兆を見逃さない。目立たない。自分の地位や財力を誇示しない。必要以外のところでは名前を売らない。現地人の妬みや恨みをかわない。必要なときに必要な警戒心を持つ。**」を守り、自己防衛に努めることが肝要である。

(4) 被害要因で見ると、約半数が自覚不足により発生している。貴重品の携行方法、物の管理に配慮し、夜間はおもてより日中でも人通りの少ない通りの単独通行は避け、住居の防備を充実すれば安全は確保可能である。

緊急連絡網（マダガスカル内：JICA関係者）

【全関係者配布資料】

平成19年5月10日現在

*：治安対策担当者（安否確認時など取りまとめ役）
 担当者が仕国外旅行等で不在の場合には次の順の者が代わりを務める

外川所長	麻野次長（細田VC）	日本大使館 川上領事	
	HF/Tel	スアヴィナン・ドゥリアナ	* 仁木
		マンドウトウ	* 菅原
		ミアンドリバツソ	*
		ババテニナ	* 竹前
	細田VC（櫛田所員）	JOCVドミトリー	
	HF/Tel	アンタナリボ	* 川崎→城野→長谷川→長塚
		アンドラマシナ	* 久保→櫻井
		サカイ・チヌルマンディディ	* 高橋
		アンチラベ	* 柴山→石田→三浦
		ムルンダヴァ	* 海老原→磯部→戸→内田
		タマタブ	* 石川→松田→諏訪
		マジュンガ	* 魚谷→宮守→井上→小野
		アンブシチャ・ツアラソチャ	* 今野→栗田
	櫛田所員（麻野次長）		
	Tel	神津企画調査員	* 神田
		田澤企画調査員	* 吉田→松井→小山内→櫻井
		シェノー（深井）企画調査員	* 月井
			* インドネシア人専門家

緊急連絡網(JICAマダガスカル事務所関係者)

平成19年5月10日現在

*本書には個人情報が多数含まれています。取り扱いにはくれぐれもご注意ください。

						HF固定
JICAマダガスカル事務所および隊員連絡所						
◆JICAマダガスカル事務所		電話:(+261)20-22 594 10/22 593 92 E-Mail:mr_oso_rep@jica.go.jp	FAX:(+261)20-22 529 10 インマルサット事務所用(緊急時のみ開設)TEL:0873-761-218794 イリジウム携帯電話(事務所用):00-8816 315 19982 イリジウム携帯電話(貸与用):00-8816 315 19984			●
◆隊員連絡所(ドミトリー)		電話:(+261)20-24 653 48				
役職等	派遣期間	氏名	自宅電話	携帯電話	備考	HF固定
JICAマダガスカル事務所・日本人スタッフ及び随伴家族: 名						
所長		外川 徹	24 517 00	033 07 215 31	イリジウム携帯電話(所長宅用) 00-8816-315-19737	
随伴家族		外川 智子、耕自、史子、寛子			032 45 184 02(個人)	
次長		麻野 篤	22 418 68	033 07 286 07		
随伴家族		麻野 千佳子、珠都				
所員		榎田 真美		033 05 261 61		
企画調査員	2007.5.14	シェノー(深井) 芽里		033 11 334 25	032 45 661 92(個人)	
随伴家族		シェノー クリストフ、マチアス				
企画調査員	2008.1.31	神津 宗之	24 261 74	033 07 019 67		
企画調査員	2009.5.7	田澤 大樹		033 05 181 20	033 07 477 11(個人)	
ボランティア調整員	2008.8.31	細田 悦子	24 164 69	033 02 587 20		●
ボランティア調整員	2007.5.16	坪内 君与		033 02 792 34		
(アンタナナリボ)長期専門家						
農業技術アドバイザー	2007.11.27	月井 芳文	24 320 35	033 05 65 432	22 281 95(B)	
大統領経済開発顧問	2008.4.22	神田 弘恭	22 214 62	033 02 018 66	22 336 97(B)	
(アンタナナリボ)短期専門家						
森林・自然環境保全アドバイザー	2007.6.14	石坂 浩史	22 319 27(Hotel RADAMA)	033 07 02 472		
JICAマダガスカル事務所・現地スタッフ						
高級クラーク		ハジャ		033 12 400 88		
高級クラーク		ヤリー		033 11 334 23		
クラーク		ロンジュ		033 11 334 24		
事務所運転手		ジョゼ		033 12 221 62		
事務所運転手		エリック		033 12 418 70		
安全対策クラーク		ミシェル		033 14 653 26	032 02 186 91(配偶者携帯)	
顧問医		Dr.フェリックス		033 11 689 04		
llafy病院		Dr.ジョージ	22 425 66 / 22 425 69(代表)	032 07 243 11		
llafy病院 別館(Behoririka)		ジャオナ	22 641 28 / 22 603 63(代表)	033 11 458 48		
顧問弁護士		ラディルフェ	22 225 40			
JUMBO NET		アンジー		033 12 895 55		
アンタナナリボ州: 12名 <フィールド調整員・青年海外協力隊>						
職種	派遣期間	氏名	自宅電話	携帯電話	勤務先など緊急連絡先電話	HF固定
ANTANARIVO(アンタナナリボ): 3名(うち女性2名) <アンタナナリボ郵便物私書箱: B.P.60120 ANTANANARIVO>						
18/1前 野菜	2008.6.25	川崎 武彦		033 02 254 43	大家(ホムステイ先):24 562 94	
18/2 養護	2009.1.7	城野 富美子		033 02 879 02	オーキッドプランシュ:22 426 23 FAX:24 244 08	
18/3 家政	2009.3.26	長谷川 麻里子		033 02 792 21	AKAMA:22 287 99/24 314 88	
AMBOHITRANGANO(アンボシチャガナヌ): 1名(うち女性1名)						
18/1後 青少年活動	2008.10.1	長塚 未来		033 02 434 70	イリジウム携帯電話:00-8816-315-19985	
ANDRAMASINA(アンドラマシナ): 2名(うち女性1名)						
17/3 村落開発普及員	2008.3.26	久保 智詞	24 125 41	033 14 413 35(個人)		
17/3 養殖	2008.3.26	櫻井 恵子	24 118 98	033 14 412 91(個人)		
SAKAY(サカイ): 1名(うち女性1名)						
18/1後 食用作物・稲作	2008.10.1	高橋 樹		033 02 434 67	Directeur(Mr.Rafalimanana):033 14 606 08	
TSIROANOMANDEIDY(チヌルマンディイ): 名(うち女性 名)						
ANTIRABE(アンチラベ): 3名(うち女性2名)						
フィールド調整員	2008.4.16	桑山 良春	44 939 19	033 02 722 72	032 431 0062(個) 44 948 85(事務所)	
17/3 婦人子供服	2008.3.26	石田 あおい		033 14 414 35	FOFAMA 44 483 72	
18/1後 看護師	2008.10.1	三浦 昭子		033 02 434 69	大家:032 07 932 99	
SOAVINANDRIANA(スアヴィナンドリアナ): 1名(うち女性1名)						
17/2 青少年活動	2007.11.27	仁木 久美子		032 40 839 96	イリジウム携帯電話:00-8816-315-19985	●
MANDOTO(マンドトウ): 1名(うち女性0名)						
18/2 村落開発普及員	2009.1.7	菅原 耕太		イリジウム携帯電話 TEL:00-8816 315 19056		●
トリアラ州: 4名 <フィールド調整員1名、青年海外協力隊>						
職種	派遣期間	氏名	自宅電話	携帯電話	勤務先など緊急連絡先電話	HF固定
MORONDAVA(ムロンダヴァ): 2名(うち女性1名)						
フィールド調整員	2008.9.10	海老原 知子		032 05 594 10	イリジウム携帯電話 TEL:00-8816-315-19060	
18/3 木工	2009.3.26	磯部 和彦		032 45 523 95	職業訓練校:95 524 10	
ANALAVA(アナライバ): 2名(うち女性2名)						
18/1後 看護師	2008.10.1	一戸 由希子	95 931 96	032 44 345 08(個人)		
18/1後 村落開発普及員	2008.10.1	内田 麻美	95 931 97	イリジウム携帯電話 TEL:00-8816 315 19458		

取扱注意
【全関係者向け配布資料】

タマタブ州:8名 <第三国専門家4名・青年海外協力隊>

職種	派遣期間	氏名	自宅電話	携帯電話	勤務先など緊急連絡先電話
TAMATAVE(タマタブ):1名(うち女性1名)					
17/1 婦人子供服	2007.7.10	松田 明子		033 14 673 44	Chef携帯(Mr.Ipirina):033 14 004 26
FOULPOINTE(フルポワント):1名(うち女性1名)					
18/1後 村落開発普及員	2008.10.1	諏訪 ゆう子		033 02 434 68	イリジウム携帯電話:00-8816-315-19980
FENERIVE-EST(フェネリブエスト):1名(うち女性1名)					
17/1 青少年活動	2007.7.10	石川 真理		033 14 307 14	大家:57 301 72
VAVATENINA(ババテニナ):1名(うち女性1名)					
18/3 看護師	2009.3.26	竹前 宏美	市長:57 620 05 Inter Aide(NGO)57 321 05(呼出)	イリジウム携帯電話:00-8816-315 19981	●
AMBATONDRAZAKA(アンバトドラザカ):4名(うち女性0名)					
稲栽培技術	2007.6.11	BambangEddy ISWANTO		033 02 134 31	
土壌改良	2007.6.11	Djoko WIDODO		033 02 134 58	
適正農業機械	2007.8.28	Djameluddin CHALID		033 07 197 77	
家畜飼育	2007.8.28	Bey NDARU		033 07 197 76	

マジュンガ州:8名 <専門家4名・青年海外協力隊>

職種	派遣期間	氏名	自宅電話	携帯電話	勤務先など緊急連絡先電話	HF固定
(マジュンガ)技プロ「母子保健サービス改善計画」						
チーフアドバイザー/公衆衛生	2009.1.21	松井 三明	62 235 87(SunnyHotelMajunga)	033 07 755 20	プロジェクト連絡先	
業務調整/研修マネジメント	2008.1.22	吉田 美希子	"	033 07 755 22	イリジウム携帯電話	
母子保健	2008.3.26	小山内 泰代			TEL: 00-8816 315 19979	
助産ケア	2007.5.11	櫻井 幸枝				
MAHAJUNGA(マジュンガ)隊員2名(うち女性1名)						
シニア隊員	2007.6.16	魚谷 フミ		033 11 098 35		
17/3 保健師	2008.3.26	宮守 由紀		033 14 414 90	プエニ県保健局:(020)62 220 06	
18/3 視聴覚教育	2009.3.26	井上 真理子		033 02 792 20		
MAROVOAY(マルブアイ):1名(うち女性1名)						
18/1後 看護師	2008.10.1	小野 佳恵		032 43 585 17	イリジウム携帯電話:00-8816-315-19987	

フィナランツォア州:2名 <青年海外協力隊>

職種	派遣期間	氏名	自宅電話	携帯電話	勤務先など緊急連絡先電話
AMBOSITRA(アンブシチャ):1名(うち女性1名)					
18/3 エイズ対策	2009.3.26	今野 美保		032 45 523 96	市長携帯:032 40 708 12
TSARASAOIRA(ツァラソチャ):1名(うち女性0名)					
18/3 行政サービス	2009.3.26	栗田 典和		032 45 523 97	ツァラソチャ村役場:22 237 91/22 240 78

*(個人)は個人所有の携帯電話
その他はすべて事務所貸与/業務用

*無線機の利用方法について

長距離無線機(HF): ①8292USB ②6280 ③5280の順に優先的に使用します。

●:固定無線機設置箇所